

August 22, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、7月FOMC議事録を受けた米10年債利回り上昇で106.65円まで上昇**

21日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は106.62円と前営業日NY終値(106.23円)と比べて39銭程度のドル高水準だった。コンテ伊首相が辞意を表明したことで、早期の解散・総選挙は回避されるとの観測が広がり伊政局不安が後退し、伊株式市場を含め欧州株全般が上昇した。また、良好な米小売業の決算を受けて米国株が上昇したため、投資家のリスク志向が改善し円売り・ドル買いとなり106.65円と日通し高値を付けた。米10年債利回りは米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨公表後に再び上昇に転じている。7月30日-31日分のFOMC議事要旨では「今回の利下げはサイクルの半ばにおける調整」「幾人かの委員は柔軟性が必要だと強調」との見解が示された。

トランプ米大統領は、米連邦準備理事会(FRB)の政策が米成長や米国の経済的な競争力を阻害していると改めて批判し、FRBとパウエルFRB議長に対する利下げに向けた圧力を強めた。また「キャピタルゲイン税や給与税の引き下げも含めた景気刺激策を検討している」との前日の発言を翻し「どのような形の減税も検討していない」と述べた。

ユーロドルは反落。終値は1.1085ドルと前営業日NY終値(1.1100ドル)と比べて0.0015ドル程度のユーロ安水準。FOMC議事要旨を受けて、1.1107ドルから1.1081ドルまで軟調推移。市場では「23日のパウエルFRB議長のジャクソンホールでの講演、24日からの先進7カ国(G7)首脳会議(サミット)を控えて、大きな方向感が出にくい状況だ」との声が聞かれた。

ユーロ円は反発。終値は118.18円と前営業日NY終値(117.93円)と比べて25銭程度のユーロ高水準となった。日本時間夕刻に118.33円と日通し高値を付けたあとは118円台前半でのみ合いに終始した。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、日米閣僚級通商協議関連のヘッドラインに要警戒か**

本日の東京市場のドル円は、明日23日のジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演を控えて動意に乏しい展開の中、昨日から本日にかけて開催される日米閣僚級通商協議に関するヘッドラインに警戒する展開が予想される。

今週のドル円の高値は、19日が106.70円、20日が106.69円、21日が106.65円までで、106.70円から107.00円にかけて控えている本邦輸出企業からのドル売りオーダーが上値を抑えている。安値は、19日が106.22円、20日が106.16円、21日が106.23円までで、106.00円に控えているドル買いオーダーやNYカットオプションが下値を支えている。

ドル円のテクニカル分析での上値の目処(めど)は、106.98円(8月13日高値)、107.19円(一目均衡表・基準線)、下値の目処(めど)は、106.02円(一目均衡表・転換線)、105.05円(8月12日安値)、104.87円(1月3日安値)、103.66円(99.02円-118.66円の上昇幅の76.4%押し)となる。

トランプ米大統領が日米通商協議に関して、「8月に非常に良い発表がある」と述べていたことで、21-22日の日米閣僚級通商協議では、9月の日米首脳会談での合意に向けて、米国産牛肉・農産物の環太平洋連携協定(TPP)並みの関税、あるいは関税撤廃の可能性が警戒されている。また、日米貿易不均衡是正に向けて、「為替条項」の導入、「為替操作国」認定、日米安全保障(有志連合への参加、米軍駐留経費の負担増)との兼ね合いにも要警戒となることで、本日は、関連ヘッドラインに要警戒となる。

7月30-31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録では、0.25%の予防的利下げが、サイクル半ばの調整であり、長期的な利下げサイクルの一環ではないことが確認された。

しかし、7月31日のパウエルFRB議長の記者会見での貿易問題への「不確実性」を受けて、8月1日にトランプ米大統領が対中制裁関税第4弾の発動を表明して「米中貿易戦争」の休戦を終わらせ、5日には中国を「為替操作国」に認定することで「米中通貨安戦争」へ戦線を拡大し、「不確実性」から「確実性」へ移行させた。

22-24日のジャクソンホール会議では、明日23日のパウエルFRB議長の講演が要警戒となる。

金利先物市場は、米連邦準備理事会(FRB)が年末までにFF金利誘導目標(2.00-2.25%)を少なくとも50ベースポイント、高い確率で75bp引き下げる可能性を織り込んでいる。

パウエルFRB議長が市場の期待(▲0.50-0.75%)を追認するのか、それともトランプ米大統領の▲1.0%利下げ圧力に屈するのか、あるいは、リスクシナリオとしての利下げ見送り、言及なし、となるのか要警戒となる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

○13:30 ◇ 6月全産業活動指数（予想：前月比▲0.8%）

## &lt;海外&gt;

○15:30 ◇ 4-6月期スイス鉱工業生産指数

○16:15 ◎ 8月仏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値（予想：49.5）

○16:15 ◎ 8月仏サービス部門 PMI 速報値（予想：52.5）

○16:30 ◎ 8月独製造業 PMI 速報値（予想：43.0）

○16:30 ◎ 8月独サービス部門 PMI 速報値（予想：54.0）

○16:30 ◇ 7月スウェーデン失業率（予想：6.0%）

○17:00 ◎ 8月ユーロ圏製造業 PMI 速報値（予想：46.2）

○17:00 ◎ 8月ユーロ圏サービス部門 PMI 速報値（予想：53.0）

○20:30 ☆ 欧州中央銀行（ECB）理事会議事要旨（7月24日-25日分）

○21:30 ◇ 6月カナダ卸売売上高（予想：前月比0.3%）

○21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.6万件／170.0万人）

○22:45 ◎ 8月米製造業 PMI 速報値（予想：50.5）

○22:45 ◎ 8月米サービス部門 PMI 速報値（予想：52.8）

○22:45 ◎ 8月米総合 PMI 速報値

○23:00 ◎ 7月米景気先行指標総合指数（予想：前月比0.2%）

○23:00 ◎ 8月ユーロ圏消費者信頼感指数（速報値、予想：▲7.0）

○米財務省 2年、5年、7年債入札条件

○英仏首脳会談（パリ）

○米カンザスシティ連銀主催の経済シンポジウム（ジャクソンホール会議）、テーマは「金融政策の挑戦」（ワイオミング州ジャクソンホール、24日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

## 【前日までの要人発言】

21日 05:44 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

「雇用はほぼ完全雇用」

「リセッションに向かうとは思わない」

21日 08:54 ホークスビーRBNZ 総裁補

「直近の大幅利下げの結果、非伝統的金融政策が必要になる可能性が低下した」

21日 14:52 ショルツ独財務相

「新たなユーロ危機の兆候は見られていない」

21日 16:05 ジョンソン英首相

「我々は10月31日にEUを離脱し、この国を世界で一番住みやすい国にする」

22日 01:34

「バックストップを変更できれば、早く進展させることが出来る」

「ドイツとの関係は英国にとって非常に重要」

「英国は合意を得ることができると信じている」

「バックストップ条項削除できれば、ともに前進できる」

21日 16:37 中国外務省

「英の香港総領事館職員は15日間の拘留下にある」

「英の総領事館職員は中国の法律を破った」

21日 18:45 シュタインマイヤー独大統領

「無秩序な英国の欧州連合離脱(ブレグジット)は英国だけでなく、すべての欧州にとって打撃」

「バックストップに関して協議されるとは思わない」

「バックストップのシナリオは十分に話し合われた」

21日 19:38 カシユカリ米ミネアポリス連銀総裁

「9月FOMCでは利下げだけではなくフォワードガイダンス使用も主張する」

21日 19:42 ショルツ独財務相

「離脱案が変更されるとは考えていない」

「英政府は変わったが、ブレグジットを巡る状況に変化はない」

21日 21:08 メルケル独首相

「英首相といかに摩擦の少ないブレグジットとするか話し合う」

21日 22:00 トランプ米大統領

「中国や他国との貿易交渉はうまくやっている」

「唯一の問題はパウエルFRB議長とFRBだ」

「パウエルFRB議長はパターができないゴルファーと同じだ」

「パウエルFRB議長には期待しない。彼は間違えばかりおかし、失望させている」

「我々は、我が国よりもっと低金利な多くの国と競争している」

「米国の歴史上、最もドル高だ」

「米国は中国とおそらく合意するだろう」

「ロシアをG7に加えることは良いことだろう」

「給与税をすぐに導入することは考えていない、なぜなら経済が良好だからだ」

22日 03:00 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨

「今回の利下げはサイクルの半ばにおける調整」

「2-3人の委員は7月FOMCで50bpの利下げ支持」

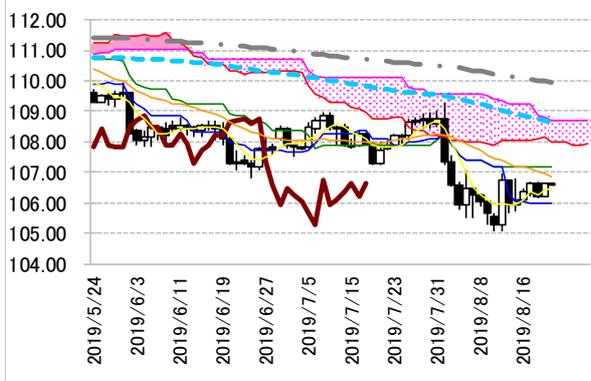
「数人の委員は7月FOMCで金利据え置きを支持」

「幾人かの委員は柔軟性が必要だと強調」

「数人の委員は量的緩和(QE)の有効性について不確実性が残っていると指摘」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

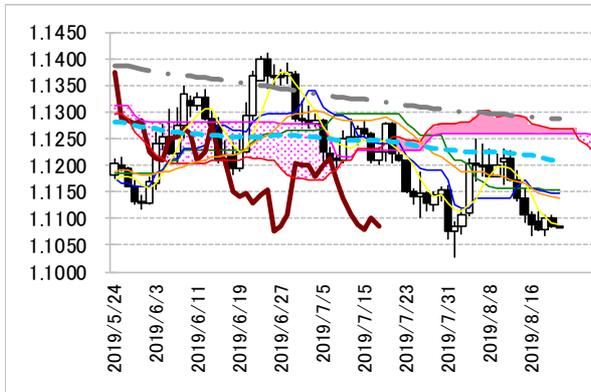


### <ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかしながら「上昇三角形」を形成しており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	107.19(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.62
サポート 1	106.02(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	105.66(8/14 安値)

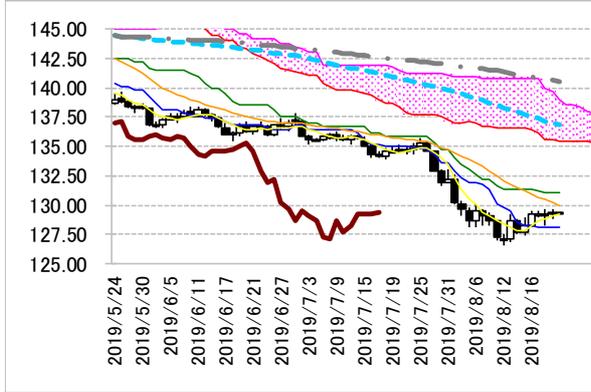


### <ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線の後、抱き線で反発、孕み線で反落しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1149(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1085
サポート 1	1.1027(8/1 安値)

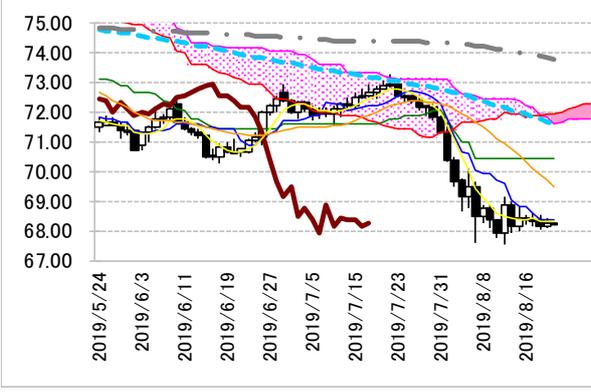


### <ポンド円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8月12日に126.55円まで下落後、「三川明けの明星」で反発基調にあり、綾戻しの可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	131.11(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	129.34
サポート 1	128.11(日足一目均衡表・転換線)



### <NZドル円＝13日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。13日の抱き線で反発、14日の孕み線で反落後、14日の陰線内でのみ合いが続いており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、13日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	69.16(8/13 高値)
前日終値	68.28
サポート 1	67.56(8/13 安値)

